

## シデ原木の含水率の変化と接種適期について

林業試験場九州支場 久保田 暢子  
温 水 竹 則

### 1. はじめに

シタケ原木の伐採後の接種適期を究明するため、昭和45年はクスギ、コジイ原木の含水率の変化と接種時期について実験した結果、種菌接種に適する原木の含水率は、クスギでは50%内外、コジイでは100%内外であることが認められ、また伐採時を100とした重量減少は、クスギ、コナラは10%内外の減少で、コジイでは20%以内の減少であることがわかった。46年度は引き続きシデ原木について調査したので報告する。

### 2. 試験方法

供試木は熊本県阿蘇郡小国町の40年生シデを昭和45年10月20日伐採と同時に長さを1 mに玉切り、中央直径7, 10, 14 cmの3区に分け、それぞれを林試九州支場実験林内の日照地と日陰地におき、所定の経過日数ごとに含水率と重量を測定した。含水率の測定は約1か月ごとにそれぞれの原木から両木口の各10 cmを除いた部分と中央から樹皮つきのまま厚さ2 cmの円板を2個ずつとり、絶乾法により絶乾重量に対する百分比で求め、重量については、ほだ木を丸太のまま測定した。なお図の曲線は、原木の中央直径3区の平均値で示す。

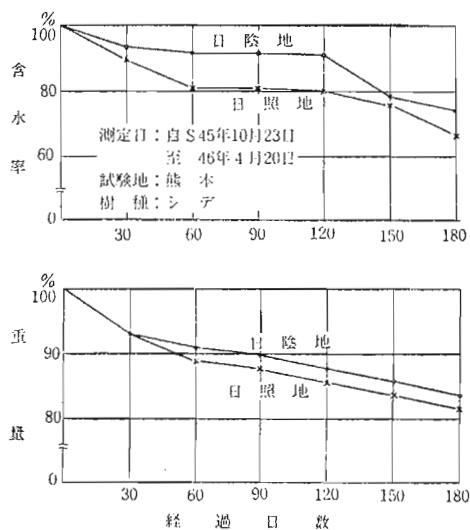
### 3. 結果と考察

1) 含水率の変化 シデ原木の含水率の変化は、6か月後には日陰地26%、日照地34%減少した。伐採時を100とした含水率の変化は、月平均では日陰地4.3

%、日照地5.7%の減少で、前に報告したクスギ原木とはほぼ同じ傾向であるが、伐採1～2か月間の減少量がクスギ原木より大きく、コジイ原木と同じ傾向であった(図参照)。

2) 重量の変化 伐採時を100とした重量は、6か月の平均、日陰地で2.6%、日照地で3.0%減少し、殊に伐採1～2か月間の早期にクスギ原木より大きく減少するのが特徴である。

これらのことからシデ原木への接種適期はコジイ原木と同じく伐採後15日～30日ぐらいが適期とみてよいであろう(図参照)。



図一 伐採時を100としたときの含水率、重量の変化